
糖分多めで宜しく。

黒兎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

糖分多めで宜しく。

【コード】

N2096BA

【作者名】

黒兎

【あらすじ】

生首大好き、ちよっぴり卑猥（笑）な
黒兎のゆるだる血塗れな今までのお話です。

初めに。(前書き)

自傷行為について等、見る人によっては、不快になる表現が多々あると思うので、気を付けて下さい。なお、この警告を無視して読み、気分が悪くなった等の苦情は受け付けませんので、ご了承下さいませ。この小説を読む方は、この警告を読んだものと見なします

初めに。

初めまして、黒兎^{クロト}っています。

好きな物は生首とグリコのコーヒー牛乳。
嫌いな物はビックリ系フラッシュとお化け。
何よりも、偏見が一番嫌い。つか、恐い。

父親、母親、行方不明の父方の祖父、
父方の祖母5人家族の1人娘。
俺含め8人いる従兄弟の7番目。

そんな中で育った俺のお話し。
一応、幼少期〜中1までを予定しています。
自分的纏めもあるので、結構雑です。

更新は多分ゆっくりです。

誤字脱字報告、感想、誹謗中傷等のコメント、
24時間、365日、俺が生きているまでは受け付けています。

幼少期

ちゃんと友達が居た。幼馴染が居た。

男の子2人をとつかえひつかえしてた。

でも、両親が共働きだった。

頻繁に遊んでくれないし、帰ってくるの遅いし、

1年の大半母方のおじいちゃんちで過ごしてるし、

兄弟居ないから、縫い包みが与えられた。

縫い包みで必死に寂しさを紛らわせた。

一応、この頃は、まだ幸せだった気がする。

それに、そこいらの子と変わらない気がする。

(あくまで俺の中の話だからね。)

∴ 叔父さんに暴力振るわれるまでは。

俺の中で、一番古い叔父さんに殴られた記憶。

それはおじいちゃんちでテレビ見てたとき。

俺、水曜日は必ず世界仰天ニュース見てたの。

その時、叔父さんがご飯食べに来たのさ。

それで、叔父さんにいきなりチャンネル替えられた。

小さい俺は、当然「あー、ちょっとー」って不満の声をあげる。

そしたら、叔父さんが突然着置いてさ。

俺の前に立って、見上げる俺に平手打ち。べしん。

一瞬、何が起こったか解らなくて。一つ間を置いて号泣。
そんな俺に罵倒の言葉を投げかける叔父さん。
慌てて俺を助ける祖母。飯がまずくなつた的な事言つて、
もう良いやろつて言うおばあちゃん無視してさ、
叔父さんは最後まで泣きじゃくる俺を睨みつけて帰った。

それ以来、叔父さんは恐怖の対象。
俺は時々地雷踏んだりして殴られる。

痛い、痛い。

小学1年生。

ピカピカの1年生。

そんな俺は、隣の席の男の子をいじめた。

保育園が一緒だった男の子と、席が近い女の子で。

消しゴム隠したり、そんな事をひたすら繰り返した。

当然、先生にバレる。

男の子の親が、毎日消しゴムを強請る子供を、

不審に思ったみたい。

俺達は怒られた。

授業に出させて貰えず、廊下に立たされた。

放課後は居残り。とことん怒られた。

毎日、学校に行くのが憂鬱だった。自業自得だけど。

だけど、親には怒られなかった。

母親にだけ、伝えられた、俺達がした事。

1回も、怒られなかった。

言われた言葉、「もうやらんといてや。」だけ。

え？、ねえ、普通はもっと怒るんじゃないの？、ねえ。

今思ふと、この頃から俺は壊れ始めたのかもしれない。

小学2年生

転校生が来た。

何処からか忘れたけど、少し大柄な女の子。

この女の子の登場が、更に俺を狂わせたのかもしれない。

俺のクラスで、相次いで物がなくなった。

当時は珍しい、ローラー型の水糊。カラーペン。

色々無くなった。俺もその被害者の1人。

俺はたまごっちのくちぱっちが大好きだった。

くちぱっち色のピンを、いつもお守りとして

身に着けていたのだ。

後で付け直そうと、ピンを自分の机の上に置き、

トイレに行った。そして帰って来た時、自分の目を疑った。

ピンが、なかった。

俺は慌てた。友達と一緒に探した。

机の下、机の中、物置の下。

何処にもない、ないないない。

その日は見付からなかった。

そして翌日。

いつも通り教室に入る。

転校生がおはよーって寄ってくる。

俺は再び自分の目を疑った。

転校生の髪に、俺の、ピン。

俺は慌てて、「それ何処で買ったん？」って聞く。

「えー、お母さんが買ってきたから解らへんー。」だとき。

そして、案の定、転校生のところから色々出てきた。

まず、糊。

名前のところにシールを貼って、持ってた。

カラーペン。筆箱の中にあっただ。

糊だけは持ち主の名前が書いてあったから、

返してくれたけど。後は返してくれなかった。

勿論、俺のピンも。

俺はこれ以来、転校生が嫌いになった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2096ba/>

糖分多めで宜しく。

2012年1月6日11時54分発行